

展示のみどころ

ここでは、いくつかの展示物を取り上げて、その見所を紹介します。

豊臣時代の大坂については、実はその時代の資料はあまり残っておらず、詳しいことがわかりません。そうした中で、豊臣時代の大坂の町の様子をビジュアルに伝えているのが、豊臣秀頼の頃の大坂を描いたと考えられる屏風絵です。後の時代の作品ではありますが、大坂城と城下町を描いた数少ない作品で、栄華を誇った城下町の様子をうかがうことができます。また、発掘調査によって見つかった金箔瓦や家紋瓦は、城下の大名屋敷を知るための貴重な手掛かりです。展覧会では、これまで公表されていなかった資料を含めて展示し、豊臣期大坂城下の大名屋敷に迫ります。

江戸の城下町に関する展示物からは、三代将軍・徳川家光の時代の江戸を描いたと考えられる屏風絵を紹介します。

この時期の江戸では、豊臣の大坂と同じように、金箔などで華麗に飾られた大名屋敷が建ち並んでいました。江戸を焼きつくした「明暦の大火」以後には、大名屋敷の華やかな装飾が禁じられてしまいます。そういう点でも、初期の江戸城下の景観を一覧できる絵画はたいへん興味深い作品と言えます。

徳川期の大坂に関しては、明暦元年(1655)の大坂を描いたとされる絵図を展示します。現在知られている大坂の古絵図としては最古級の資料であり、豊臣期の大坂を母体としてさらに広がりつつある大坂の町の様子がよく表されています。この展示物以外にも、新発見の資料を含めて大坂の古絵図を展示しますので、ぜひとも注目していただきたいところです。



関連行事など

会期中の2月24日(日)にシンポジウムを、3月10日(日)には記念講演会を開催します。また、2月9日(土)と3月16日(土)に学芸員による展示解説を実施しますので、関心ある方は展覧会に合わせてご参加いただければと思います。くわしくは大阪歴史博物館のホームページやチラシ等をご覧ください。

① 江戸図屏風(左隻)

江戸時代

国立歴史民俗博物館蔵(展示は複製)



細長い翼をもつグライダー

※このグライダーは、東北大学学友会航空部から寄贈されたものです。

◆学芸員のおススメコレクション◆

大阪市立科学館 グライダー

科学館の玄関に入っすぐのところにグライダーが展示されています。このグライダーは、ポーランド製のSZD-30 Pirat(ピラト)。SZD-30 Piratで動画検索をすると、ピラトがヒラヒラと飛んでいるのを見つけることができます。とても小回りの効く運動性の高い機体だったんだなあと感じます。

グライダーは動力がついていませんから、無風状態では水平に飛び続けることはできません。少しずつ高度を下げながら、滑るように空を駆け下りて行きます。ピラトは7mの全長に対し、翼の長さは15m。空気抵抗を小さくし、揚力を大きくするには、細長い翼が有利なのです。(大阪市立科学館学芸員 大倉 宏)

大阪市立科学館 所在地 〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-1

TEL 06-6444-5656 FAX 06-6444-5657

アクセス 地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」3号出口から西へ約500m 京阪中之島線「渡辺橋駅」②出口

から南西へ約400m 阪神・JR環状線「福島駅」、JR東西線「新福島駅」から南に約900m

ホームページ <http://www.sci-museum.jp/>